

## 古代アメリカ学会 第3回西日本部会研究懇談会のお知らせ

第3回西日本部会研究懇談会「メソアメリカ南東部ボーダーラインの考古学・現状と展望」を以下の要領でこの秋開催することになりました。非会員の方も参加できますので、関心のある方にはお声をおかけ下さい。参加の事前登録は必要ありません。皆様のご参加をお待ちしております。

### 【研究懇談会概要】

本学会会報 35 号でも紹介されたように、中米エル・サルバドルでは昨年年第5回中米考古学大会に引き続き、来年は第55回国際アメリカニスト会議が開催されます。近年、我が国の研究者たちも調査活動を実施し、研究が活発化しているメソアメリカ南東部。これまで政治的・経済的な諸問題を抱えていたがために考古学調査が停滞していましたが、安定しつつある今日これからの研究のフロンティアは大きく広がっています。この地域の考古学について、最新の研究成果紹介のみならず、研究者をとりまく様々な現地状況も含めて、全体を俯瞰しようと試みます。

### 発表1「ニカラグア共和国マタガルパ県における考古学と博物館学を仲介者とした実践的地域研究～プロジェクト・マティグアスの現状と課題～」

【発表者】： 南博史（京都外国語大学）、植村まどか（京都外国語大学博士課程）

【コメンテーター】： 長谷川悦夫（埼玉大学）

【発表概要】京都外国語大学国際文化資料館では、京都ラテンアメリカ研究所と共同で行う総合学術研究の一環として、2013年より中米ニカラグア共和国マタガルパ県マティグアス郡をフィールドとして『プロジェクト・マティグアス』を開始した。このプロジェクトは、「考古学と博物館学を仲介者とする実践的地域研究」を目指し、ニカラグア国立自治大学の協力のもと、2013年8月にはマティグアス郡ラスベガス遺跡および周辺での踏査、2014年3月には同遺跡にて地形測量調査を行った。また、このプロジェクトは考古学調査だけではなく、地元NGO団体と協働したコミュニティミュージアムづくりや教育普及活動、ニカラグア・カトリック大学と連携した地域課題解決プロジェクトの展開を含む地域活動も積極的に行っている。本発表では、『プロジェクト・マティグアス』で実施した考古学調査とマティグアスにおける地域活動の現状、および今後の課題について報告する。

### 発表2「エル・サルバドルの考古学」

【発表者】： 伊藤伸幸（名古屋大学）

【コメンテーター】： 村野正景（京都文化博物館）

【発表概要】メソアメリカ南東部において、メキシコやグアテマラの2国で考古学調査が活発にされてきた。エル・サルバドルは内戦の影響もあり、一部の遺跡を除き長らく考古学調査の空白地域であった。我々が実施している考古学調査は、1995-2000年の京都外国語大学調査を基としている。2000年からは、名古屋大学と文化遺産局を中心に、考古学調査を行っている。京都外国語大学の調査目的は、メソアメリカのメキシコ中央部地方で栄えたテオティワカン文化の波及に関してであった。現在の調査の主な研究対象は、テオティワカン以前の文化を追求することである。これらの調査結果から先古典期から古典期に亘るチャルチュアノ遺跡群の文化が判明してきた。今までの調査経緯と調査結果を検討する。

【日時】： 2014年10月25日（土） 13:25～16:45

- ・開会あいさつ 13:25
- ・発表1 13:30～14:30
- ・コメントおよび質疑応答 30分
- ・小休憩（15分）
- ・発表2 15:15～16:15
- ・コメントおよび質疑応答 30分（16:45終了予定）

【会場】： 京都外国語大学「国際文化資料館（第2分館10号館）」3階

※10号館は四条通葛野大路に面した本部ではなく、その西側の天神川通り沿いにあります。地下鉄「太秦天神川駅」からは5分ほどです。詳細は下記ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.kufs.ac.jp/umc/index.html>

### 【連絡先】

- ・西日本部会幹事・芝田幸一郎（神戸市外国語大学）ks\*inst.kobe-cufs.ac.jp
- ・古代アメリカ学会事務局 jssaa\*sa.rwx.jp  
（上記アドレスの\*を@に換えて下さい）